

第 2 回 史跡作山古墳調査指導委員会

日 時 令和 6 年 1 2 月 1 7 日（火）

午前 1 0 時 3 0 分～午後 4 時

場 所 ・会 議 総社市保健センター 2 階
保健指導室・集団指導室
・現地視察 史跡作山古墳

1 開 会

2 市長挨拶

3 議 事

（ 1 ） 作山古墳の現状と課題について

（ 2 ） 現時点での作山古墳の本質的価値について

（ 3 ） トレンチ設定場所について

（ 4 ） 次年度予定について

（ 5 ） その他

4 現地視察

5 その他

6 閉会

第 2 回 史跡作山古墳調査指導委員会

資 料

第2回 史跡作山古墳調査指導委員会名簿

職名	氏 名	所属・役職等
委員長	うがき ただまさ 宇垣 匡雅	元岡山県古代古備文化財センター所長
副委員長	おかばやし こうさく 岡林 孝作	奈良県立橿原考古学研究所 学術アドバイザー
委員	かめだ しゅういち 亀田 修一	岡山理科大学生物地球学部生物地球学科 特任教授
	ひろせ さとる 廣瀬 寛	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所 飛鳥資料館 古墳壁画室長
	みつもと じゅん 光本 順	国立大学法人岡山大学 文学部社会文化科学研究科 教授
オブザーバー	おうみ としひで 近江 俊秀	文化庁文化財第二課 埋蔵文化財部門 主任文化財調査官
	おのうえ もとき 尾上 元規	岡山県教育庁文化財課 副課長
総社市 市長	かたおか そういち 片岡 聡一	
総社市 副市長	なかしま くにお 中島 邦夫	
総社市 政策監	なんば としふみ 難波 敏文	
総社市 産業部長	にしかわ しげる 西川 茂	
庶務 (事務局)	あかぎ いくや 赤木 郁哉	総社市産業部観光プロジェクト課 課長
	こじま よしくに 小嶋 善邦	総社市産業部観光プロジェクト課 主幹
	かわはら むつひろ 河原 睦弘	総社市産業部観光プロジェクト課 主幹
	たかはし しんいち 高橋 進一	総社市産業部観光プロジェクト課 主査
	ささだ けんいち 笹田 健一	総社市産業部観光プロジェクト課 主査
	まどころ かつひと 間所 克仁	総社市産業部観光プロジェクト課 主事
	にしえ たくや 西江 卓也	総社市産業部観光プロジェクト課 主事
	いわはし あつや 岩橋 惇也	総社市産業部観光プロジェクト課 主事
	のぶはら あい 延原 愛	総社市産業部観光プロジェクト課 主事
	ひらい のりこ 平井 典子	総社市埋蔵文化財学習の館 館長

(1) 作山古墳の現状と課題について

	現状	課題	トレンチ 番号
調査・研究	総社市が保有している墳丘測量図は、平板による25 cmコンターの測量図である。	現在の研究水準に適した墳丘のデジタル測量が必要である（三次元測量及び赤色立体図）。	
	後世の地形改変によって墳端部が削平を受けており、墳丘規模が未確定である。	必要な位置にトレンチを設定し、墳丘規模を確定させる必要がある。	T1～T6・T8～T13
	後円部は楕円形を呈する。	必要な位置にトレンチを設定し、確認する。	T8～T14
	前方部突出部の性格が不明である。	必要な位置にトレンチを設定し、確認する。	T1～T3
	北側造出の南側に位置する張り出し部の性格が不明である。	必要な位置にトレンチを設定し、確認する。	T5
	丘陵を利用して墳丘を築造したと言われているが、詳細は不明である。	必要な位置にトレンチを設定し、確認する。	T1～T4・T6・T8～T15
	周堤・周濠の有無が明らかでない。	周堤・周濠の痕跡と言われている箇所にトレンチを設定し、調査を実施する。	T4～T7
	墳丘周辺部の加工状況が未確認である。	「作山段」や南側の残丘部にトレンチを設定し、加工状況を確認する必要がある。	T1・T2・T12・T13
	南側の造出の有無もしくはその位置が不明である。	所有者の同意や関係者の理解を得て、将来的には民有地の公有地化を進め、調査を行う必要がある。	
	史跡地内の南東に陪塚とされている高まりが認められる。	民有地内にある高まり部について、古墳かどうかを確認する必要がある。	
	陪塚の有無が明らかにされていない。	三須1号墳、2号墳（野宮古墳）の性格を明らかにする必要がある。	
	葺石や埴輪列の外表施設が断片的に確認されている。	外表施設の配置状況を明らかにする必要がある。	全トレンチ
	形態差が指摘されている円筒埴輪や様々な形象埴輪が出土している。	悉皆的な調査を行い、詳細を明らかにする必要がある。	
保護・保存	当地域の作山古墳築造後の首長墳の系譜はある程度判明しているものの、こうもり塚古墳の築造、さらには備中国分寺・国分尼寺建立に至るまでの政治的・社会的な動態が不明確である。	広い視点に基づいて、当地域の政治的・社会的な動態を解明する調査・研究を行う必要がある。	
	未盗掘であり、墳端部以外は良好に保存されている。	現状を維持するような保護措置を講ずる。	
	後世の地形改変によって崖面となっている墳端部が、近年の大雨等により、崩落する危険性が指摘されている。	崖面が所在している場所は主に民有地であることから、所有者の同意を得て保護措置を講ずる必要がある。	
	墳丘が浸食されている部分が認められる。	浸食が進まないように、保護措置を講ずる。	
	墳丘と一体的に保護・保存すべき墳丘周辺部の様子が明らかではない。	必要な位置にトレンチを設定し、周辺部の状況を確認する。	T1・T2・T4・T5・T7
	史跡指定地内に民有地が含まれているため、一体的な保護・保存ができていない。	所有者の同意や関係者の理解を得て、将来的には民有地の公有地化を進め、史跡を確実に保護・保存する。	
	下草狩りが年1回（晩秋～初冬）のみのため、初夏～秋の季節には下草が繁茂し見学しづらい。	維持管理費の増額を図る。	
活用	松枯れが進み、樹木の倒壊が指摘されている。	定期的な巡回を増やし、危険な立木を撤去する。	
	トイレや駐車場が整備されている。	駐車場へのアプローチ道路も含め、大型バスに対応した整備を行う必要がある。また、適切な維持・管理を行う。	
	見学路が未整備である。	墳丘の現状を変えることなく整備をする必要がある。	
	見学者が民有地へ立入る。	立入り禁止看板等の設置が必要である。	
	ガイダンス施設がない。	ガイダンス施設等を設置する必要がある。	

市民に作山古墳の価値が周知されていない。	総社市の広報媒体による広報、講演会の開催、パンフレット等の刊行を通して、作山古墳の価値及び重要性を積極的に周知する必要がある。	
周辺の史跡（造山古墳・こうもり塚古墳など）との連携が不足している。	県や岡山市などの関係自治体との連携体制を構築する。	
学校教育や生涯学習との連携が不足している	アンケート等の実施から学校現場等のニーズを把握し、それに沿った活用方法を関係部署等と検討し、連携体制を構築する。	
観光や地域振興の視点に立った活用方法が検討されていない。	市関係部署や地域団体と連携して、魅力向上を図れるような活用方法を検討する。	

（２）現時点での作山古墳の本質的価値について

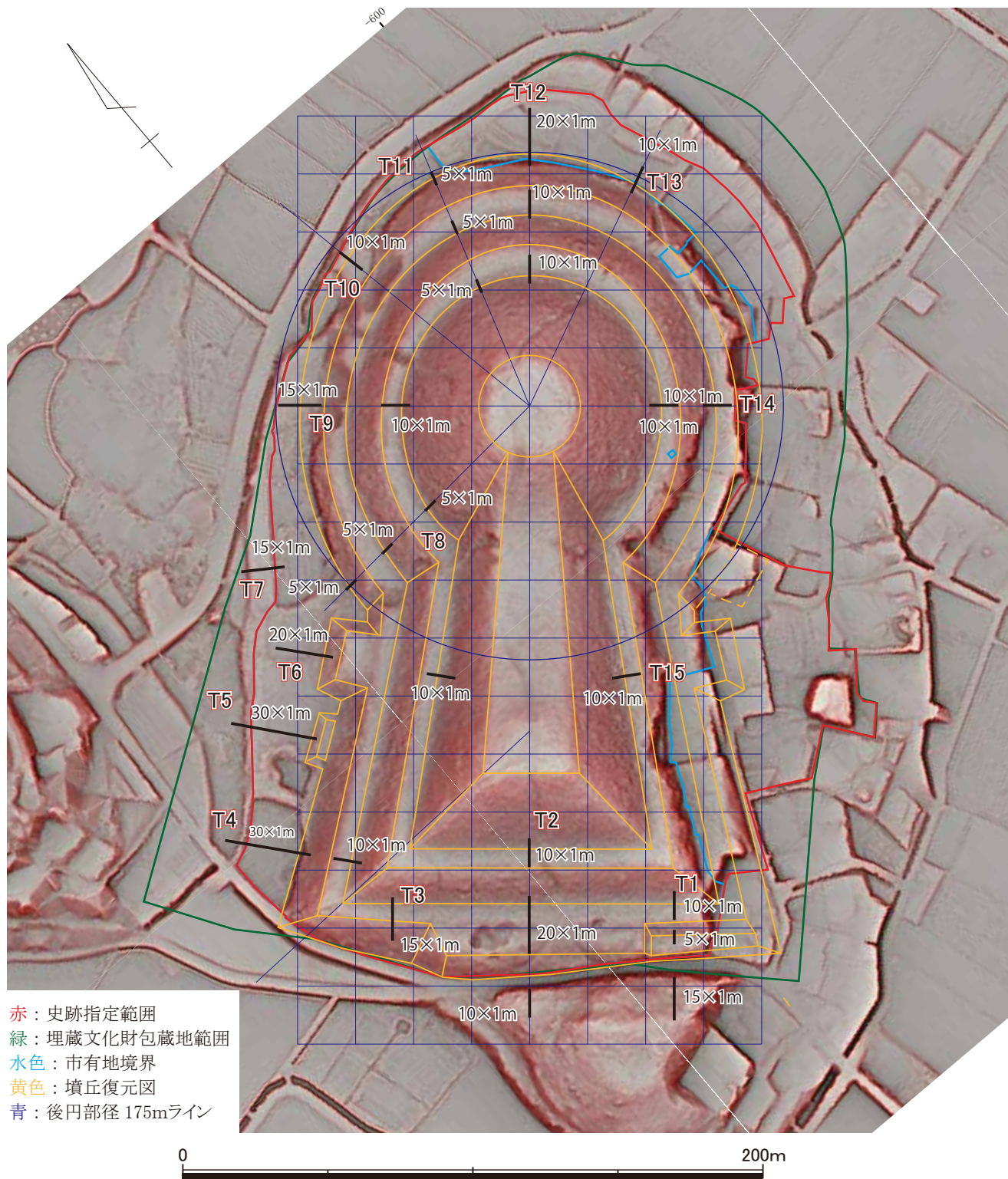
- 1 全国第１０位の墳丘規模である巨大前方後円墳
- 2 築造当時の姿が良好に保存されている巨大前方後円墳
- 3 自由に立ち入ることが可能な巨大前方後円墳
- 4 交通の要衝に立地している巨大前方後円墳
- 5 （旧地形に規制された墳形を呈する前方後円墳）

（３）トレンチ設定場所について

将来にわたる保存と活用・整備に関する基礎データを得るため、墳丘規模及び形態や外表施設（葺石や埴輪など）の配置状況、さらには墳丘と一体的に保護・保存すべき範囲を明らかにすることができる場所にトレンチを設定する（別紙参照）。

（４）次年度予定について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導委員会等	第1回 第2回 現地指導（県内委員2回、県外委員1回）											
発掘調査等	発掘調査・地質調査 調査準備・外表施設の確認 調査の評価・次年度調査準備											
資料整理	出土遺物の検討 埴輪の悉皆調査・胎土分析等											
公開・活用	講演会 現地説明会 活用方法の検討（教育現場や地元へのアンケート等）、SNSを利用した広報等											



調査区名	長さ×幅(m)	面積(㎡)	調査区名	長さ×幅(m)	面積(㎡)	調査区名	長さ×幅(m)	面積(㎡)
T1	30×1	30	T6	30×1	30	T11	15×1	15
T2	40×1	40	T7	15×1	15	T12	45×1	45
T3	15×1	15	T8	15×1	15	T13	10×1	10
T4	40×1	40	T9	25×1	25	T14	20×1	20
T5	30×1	30	T10	10×1	10	T15	10×1	10

年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12
調査区名	T2, T5	T7, T12, T13	T1, T9, T14	T3, T8, T10, T11, T15	T4, T6	補足調査
面積(㎡)	70	70	75	65	70	未定

史跡作山古墳調査区位置図<予定> (1/2,000)

※民有地(残丘・「作山段」等)の発掘調査については、土地所有者と調整中のため、場所の変更もある。

各トレンチの長さは計画段階の最大長であり、調査状況によっては縮小する場合もある。

墳丘周辺の平坦地部分のトレンチ(T4～T7, T9, T10, T12, T13)は、状況によって幅2mとなる場合がある。また、平坦部で周濠・周堤等が検出されなかった場合は、トレンチの縮小もしくは別地点への変更も考えている。

トレンチ設定場所について

年度	調査区分名	トレンチ設定目的	備考	調査目的					
				墳丘主軸 規模	後円部形 態・規模	前方部形態 (突出部 含)	周濠・ 周堤	周辺加工状 況（作山 段・残丘）	付帯 施設
R7	T2	墳丘主軸における規模，前方部1・2段目平坦面の状況，前方部突出部の 形態，残丘部の改変状況		○		○		○	
	T5	張り出し部の性格，周濠・周堤の有無	周濠が確認された場合，その深さによっては 幅を2mとする				○		○
	T7	周堤の有無	周堤が確認された場合，その高さによっては 幅を2mとする				○		
R8	T12	墳丘主軸における規模，後円部1・2段目平坦面の状況，「作山段」の性格		○	○			○	
	T13	墳丘端部状況，「作山段」の性格	墳端部が削平を受けていないと想定している箇 所		○			○	
R9	T1	前方部の形態，前方部1段目平坦面の状況，残丘部の改変状況				○		○	
	T9	後円部の形態・規模，後円部2段目平坦面の状況				○			
	T14	後円部の形態・規模，後円部1・2段目平坦面の状況				○			
R10	T3	前方部の形態，前方部1段目平坦面の状況					○		
	T8	後円部の形態・規模，後円部1・2段目平坦面の状況				○			
	T10	後円部の形態・規模				○			
	T11	後円部の形態・規模，後円部1・2段目平坦面の状況				○			
	T15	前方部2段目平坦面の状況					○		
R11	T4	周濠・周堤の有無，前方部1段目平坦面の状況	T5・T7で周濠等が確認されなかった場合，調 査面積を縮小			○	○		
	T6	造出の形態，周濠・周堤の有無，前方部2段目平坦面の状況	T5・T7で周濠等が確認されなかった場合，調 査面積を縮小			○	○		○
R12	未定		補足調査						